

Luncheon Linguistics, 11/27/2024

2024（令和6）年11月27日

「ラオ語における方向動詞/*khùm*/の機能について」

発表者：下間彩加（東京外国語大学大学院博士後期課程）

本発表の目的は、ラオ語における方向動詞/*khùm*/「上がる」の機能を明らかにすることである。方向動詞とは、文の核となる第一動詞（＋補語）に後続して動作や状態の変化を表す第二動詞群のことをさす。例えば、状態を表す動詞/*dii*/「良い」に方向動詞/*khùm*/「上がる」が後続して/*dii khùm*/「良くなる」を表す。考察にあたっては、3冊のラオ語現代小説から収集した例文を言語資料とし、第一動詞の意味に基づいて/*khùm*/の出現環境を検討している。その結果、ラオ語における方向動詞/*khùm*/は第一動詞が表す動作の方向性や状態の指向性、事態の内部的な時間構造の捉え方に変化を付加する機能をもつことが明らかになった旨を報告する。本発表では、/*khùm*/が可変性の高い動作を表す動詞に後続する場合は上向きの方向性を付加する機能をもつこと、一時的な動作や状態を表す動詞に後続する場合は正の指向性を付加する機能をもつこと、瞬時の動作や一時的な状態を表す動詞、伝達行為を表す動詞、創造を表す動詞に後続する場合はそれぞれ発生・開始・達成といった時間的な変化を付加する機能をもつことを主張する。